

OSAKA
MEDICAL
COLLEGE

大阪医科大学学報

Vol.122



特集

健康寿命をのばす「たかつきモデル」

植野 高章 教授 / 星賀 正明 専門教授 / 玉置 淳子 教授

研究室訪問

未知の世界を切り拓き、世界の最先端で競争できる独自性のある研究に取り組む

小野 富三人 教授





Contents

3 特集 健康寿命をのぼす「たかつきモデル」

「たかつき」の健康寿命をのぼし、地域を活性化させる
植野 高章 教授 / 星賀 正明 専門教授 / 玉置 淳子 教授

8 OMC TOPICS

- 01 第17回国際医学生生理学クイズ大会(IMSPQ)で、
歴代日本一の成績で予選突破
- 02 関西5医科大学研究医養成コースコンソーシアム合宿
- 03 関西医科大学医学部と単位互換に関する協定を締結
- 04 毎年恒例「院内コンサート」～秋のひと時を素敵な音楽で満喫～
- 05 令和元年度(第13回)伊藤奨学基金授与式
- 06 令和元年度大阪医科大学解剖慰霊祭
- 07 小野奨学会奨学生学業成績優秀者表彰
- 08 第3回ベストティーチャー賞授賞式
- 09 大須賀翔先生が第123回日本眼科学会総会学術展示優秀賞
- 10 大森実知先生が第64回日本口腔外科学会
優秀ポスター発表賞(ゴールドリボン賞)
- 11 令和元年度第1回臨床研究教育研修会
- 12 令和元年度(第14回)釣奨学基金授与式
- 13 2019年度学園祭開催
- 14 令和元年秋の叙勲
訃報
- 15 令和元年度名誉・功労教授懇談会
- 16 女性医師支援センター開設一周年記念講演会
- 17 第4回大阪医科大学市民公開講座・第5回高槻市民いきいき健康講座を開催
- 18 臨時FD「研究活動に対する本学の取組姿勢」
- 19 医療統計室の伊藤ゆり准教授が
「第8回健康寿命をのぼそう!アワード」の厚生労働省健康局長優良賞を受賞
- 20 医学教育センター教員・医学学生生活支援センター教員と
学生代表の懇談・懇親会開催
- 21 第17回SGH特別賞を受賞
- 22 本学医学部医学科学生が「第41回学校茶道エッセイ」優秀賞を受賞
- 23 令和元年度実験動物慰霊祭
- 24 第9回FD&SD「教育・研究集会」
- 25 高等教育の修学支援新制度について
- 26 台北医学大学からの感謝状贈呈式
- 27 「研究シーズ&ニーズ集(第5版)夢の架け橋」発刊に寄せて
- 28 国際交流
- 29 令和元年度年賀交歓会
- 30 2019年度第71回西医体について
- 31 市民公開講座開催報告
- 32 女性のトータルヘルスケアを目指して
- 33 多職種連携・シミュレーション教育
- 34 眼科学教室の池田恒彦教授が第22回『盛賞』を受賞
- 35 中国山西医科大学からの教員研修受け入れ
- 36 令和元年度田中忠彌国際交流基金授賞式について
- 37 ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学
支援奨学基金・研究成果報告会

20 海外留学 / OMC NEWS

21 研究室訪問 未知の世界を切り拓き、 世界の最先端で競争できる 独自性のある研究に取り組む

生理学教室 小野 富三人 教授

23 チーム大阪医大の 現場力 Vol.16

学務部大学院課

病院ボランティアグループ ふれあい

24 研究助成金の内定・採択 について

25 寄付事業活動について

27 高槻中・高だより

29 OMC NEWS

28 大阪薬大だより

30 水彩画と私

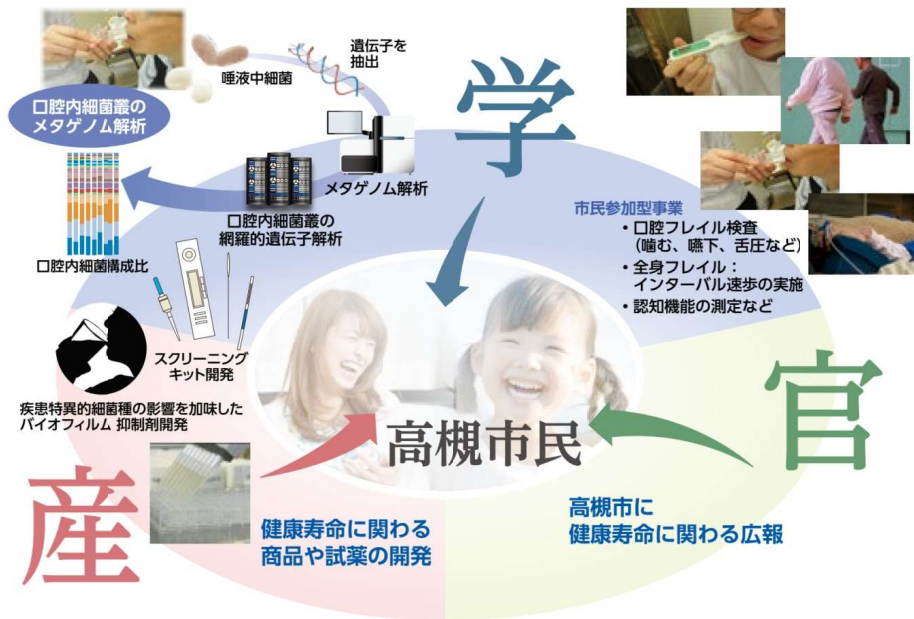


健康寿命をのばす「たかつきモデル」 「たかつき」の健康寿命をのばし、 地域を活性化させる

本学では学長のリーダーシップの下、高槻市、高槻商工会議所と連携して、全学横断的なアプローチで「たかつき」の健康寿命をのばし、地域を活性化させる「たかつきモデル」に取り組んでいます。
このプロジェクトは、文部科学省の平成29年度『私立大学研究ブランディング事業』に選定^{*}され、3年間で多くの成果を生んでいます。プロジェクトの概要とこれまでの主要成果、今後の展望についてご紹介します。

※正式事業名：オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出

平成29年度私立大学研究ブランディング事業（社会展開型）



文部科学省私立大学研究ブランディング事業について

本事業は、学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、経常費や設備費、施設費を一体的に支援されるものです。

健康状態の衰えは、口腔機能の衰え（オーラルフレイル）と密接な関係があります。

本事業は、『オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出』をテーマとしています。地域住民を対象とするコホート研究と融合し、高槻市民の健康寿命延伸に寄与するエビデンスの提供、健康増進施策への提言及び研究成果の事業化など、研究機関としての成果を還元し、少子高

齢中核市を活性化する『たかつきモデル』を創出することを目標として活動してまいりました。

2019年度をもって本事業は終了しますが、本学としては、引き続き、高槻市民の健康寿命延伸に寄与することを目指し、できる限り事業継続してまいりたいと思います。

最後になりましたが、高槻市及び高槻市商工会議所をはじめ、本事業で種々ご支援いただいた高槻市医師会、高槻市歯科医師会、高槻市薬剤師会、高槻市社会福祉事業団、高槻市社会福祉協議会、サンスター財団及びサンスター株式会社には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

大阪医科大学 学長 大槻 勝紀

プロジェクトの目的とゴール

人間の口には約 400 種類以上の細菌が存在し、その口腔内細菌のなかには動脈硬化などの循環器疾患や自己免疫疾患、生活習慣病に関わるものもであるとされています。本学では、全国に先駆けて口腔内細菌叢の網羅的遺伝子解析（メタゲノム解析）を行い、自己免疫疾患との関わりを研究してきました。「たかつきモデル」では、これまでの研究成果を礎に口腔内細菌と健康寿命に影響する病態や様々な疾病発症との関連、また、口腔内細菌叢の変化に影響する要因の解明を目指し、基礎研究と実地検証から口腔内細菌叢研究まで大学が一体となって取り組んでいます。

このプロジェクトのゴールは、研究成果によって子どもから高齢者までそれぞれのライフステージに応じた病気と介護の予防に寄与することです。「健康増進プログラムの地域住民への展開」、「健康増進施策の行政への提言」、「産学連携による研究成果の事業化」により、「たかつき」の健康寿命をのばし、地域を活性化させるモデルを創出していきます。

本学の建学の精神である「医育機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそれらは実地の医療に活かすことで達成される」を踏まえつつ、高槻市民の健康寿命延伸と地域企業との産学連携事業へとつなげ、地域の持続的発展に貢献する大学として、この「たかつきモデル」を全国展開することを目指しています。

主要な研究活動

◎口腔内細菌叢（口腔内フローラ）の網羅的解析

近年、口腔内細菌叢の状態と、生活習慣病や動脈硬化などの全身疾患との関わりが注目されています。このプロジェクトでは、本学附属病院の患者さんや高槻市民の皆さんから唾液サンプルの提供を受け、口腔内細菌叢の遺伝情報の網羅的遺伝子解析（メタゲノム解析）を実施し、子ども、妊婦、働き盛りの 30～40 代、高齢者など、様々なライフステージにある人たちの、口腔内細菌叢と全身疾患との関わりを解明に取り組んでいます。

また、健康疫学調査では、健康診断や食生活などのほか、歯周組織検査や口腔機能検査（嚙む力、唇を閉じる力などを測定する）を実施。同時に、食事や運動による血管内皮の変化を追跡することにより、健康レベルを可視化します。わかりやすい指標を手がかりに、オーラルケアをはじめとする生活改善を促すモデルの提案を目指していきます。

◎「コホート研究」による統計的アプローチ

口腔内細菌叢の遺伝子データと、病気や健康状態とはどのように関係するのか？

このプロジェクトでは高槻市との協力体制のもと、唾液サ

ンプルを収集し、その後の病態や疾患を追跡する「コホート研究」を行い、未だ解明されていない口腔内細菌叢データと様々な病態・疾患等の関係性を見出すことを目指します。

・シニアコホート研究

65 歳以上の方を対象に、口腔機能、口腔内細菌、血管の硬さ、体力等を調べ、その後の健康状態を追跡調査することで、疾患・要介護状態になりやすい生活習慣との関連を調査します。

・次世代コホート研究

妊婦の方を対象に、口腔内細菌を採取し、妊娠高血圧や早産などとの関連を調べます。また産まれた子どもの健康状態や口腔内細菌叢形成への影響なども長期的に追跡調査します。

◎公衆衛生課題の「見える化」と高槻市民への知の還元

このプロジェクトは、研究を深めていく過程で得られた研究成果や知見を地域の皆さんに還元します。高槻市の協力のもと介護・健康等に関する地域情報から公衆衛生に関する高槻市の課題を「見える化」し、シンポジウムの開催や各種セミナー、子どもの教育現場への参画などを通じ、地域の皆さんが「より健康に長生きできる方法」をお伝えしていきます。

主要なブランディング活動

（市民への情報発信、健康増進・疾病予防を目的とした介入プログラムなど）

医療や介護を必要とせず健康な生活ができる「健康寿命」をのばすための活動を積極的に展開し、地域活性化のモデル作りに取り組んでいます。

◎カムカムサロン

「健康づくり」に興味のある高槻市民の方に向けて、教員による健康アドバイスや体操に加え、血圧や、筋力測定、「嚙む力」など健康チェックを行っています。

◎インターバル速歩

中高年に適した運動として注目を集めている「インターバル速歩」（早歩きとゆっくり歩きを交互に繰り返す運動）を市民の皆さんに参加いただき、半年間取り組むことによって健康状態がどのように変化するかを検証しています。

◎講演会・シンポジウムなど

健康寿命をのばすための健康法や秘訣をお話する「高槻市民いきいき健康講座」や、展示会でブースを出展しています。



健康寿命をのばす 「たかつきモデル」

Interview 1

「口腔内細菌叢解析・創薬研究グループ」の主要メンバーとして「たかつきモデル」を推進しておられる植野高章教授と星賀正明専門教授に、このプロジェクトの意義や成果、今後の展開についてお伺いしました。

医学部 口腔外科学教室
教授 植野 高章

医学部 内科学Ⅲ教室
専門教授 星賀 正明



(写真 左：星賀専門教授 右：植野教授)

全国に先駆けた口腔内細菌叢の研究をベースに

——「たかつきモデル」の発端となった口腔内細菌叢の研究とは、どのようなものですか。

植野 背景として口腔内の細菌が動脈硬化に影響を与えているという論文が2011年に出ました。そこから口腔内細菌と循環器の疾患、なかでも患者数の多い動脈硬化症との関係が世界中で注目されてきました。そうしたなか、私たちは口腔内細菌をゲノムレベルで見ることができ次世代シーケンサーを用いて、口腔内細菌叢を網羅的に遺伝子解析する手法（メタゲノム解析）を確立しました。口腔内細菌の研究は培養など古典的な方法でアプローチする研究はありましたが、口の中の常在菌全体を遺伝子レベルで網羅的に解析する方法からアプローチする研究はほとんどなく、全国に先駆けたものでした。

そうしたアカデミックな素地があったところに、星賀先生も循環器の疾患と口腔内環境の関心に興味を持たれていて、ぜひ一緒に研究しましょうと、循環器内科に入院されている患者さんの口腔内細菌叢を調べてみました。その成果を日本感染症

学会で循環器内科と口腔外科との共同で発表しました。それが、今回のブランディング事業の予備研究となりました。

——そうした研究を、産官学連携のブランディング事業で取り組むことは、どのような意義がありますか。

植野 歯周病は最も罹患率が高い疾患の一つで、成人の70～80%が罹患しています。動脈硬化は日本人の死因の中でも上位を占める心筋梗塞や脳卒中といった重大な病気を引き起こします。動脈硬化などの循環器疾患は、健康意識の高い市民の方の関心も高いですし、行政は社会保障費の抑制という観点から、産業界も働いている人の健康管理の点から高い関心を持たれています。今回のブランディング事業では、発生頻度が高い口腔内の疾患と動脈硬化の関係を行政と産業界、アカデミアが一緒になって高槻市民の方に情報提供していきます。研究成果を通して市民の方の、健康意識、健康状態が向上することで健康寿命を延伸することを目指していきます。

アメリカ心臓協会でブランディング事業の研究成果が高い評価を受ける

——ブランディング事業が始まって3年経ちました。どのような成果がありましたか。

植野 学内での一番の成果はブランディング事業をきっかけにして、私たちの口腔外科、星賀先生の循環器内科だけでなく、微生物学教室、衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ教室、消化器内科、糖尿病代謝・内分泌内科、一般・消化器・小児外科、小児科、

リウマチ膠原病内科、産科・生殖医学科、婦人科・腫瘍科、新生児科と横断的に研究の幅が広がって研究グループができたことがあります。これは教室間の垣根が低いという、本学の強みが活かされた研究プロセスでの成果だと思います。

研究成果では、昨年12月に韓国・釜山で開催された国際糖尿病学会で口腔内細菌叢と2型糖尿病の関係の発表が採択されましたし、日本口腔外科学会で本学の大学院生が賞を

受賞しました。いろいろな学会で評価を受けていますが、一番は米国フィラデルフィアで開催されたアメリカ心臓協会（AHA）で星賀先生がブランディング事業の研究成果を発表して採択され、それがニュースで紹介されたことです。AHAのホームページで星賀先生が紹介されたことは偉業でした。本当にびっくりしました。

— AHA でどのような発表をされたのですか。

星賀 動脈硬化性疾患がある38人の方の口腔内細菌叢のゲノム解析と、その患者さんと年齢・性別がマッチした70人の健康者の口腔内細菌叢を比較し、その差を明らかにしたことがAHAでの発表骨子です。歯周病があると動脈硬化性の疾患になりやすいと言われていましたが、そのメカニズムはよく分かっていませんでした。そのメカニズムの解明に一歩前進する研究として評価されました。

従来、歯周病がある方が動脈硬化になりやすいのは、歯周病を起こしている悪玉の菌が影響をしているのだろうと考えられていました。しかし、悪玉の菌を抗菌薬で対処するという方法では動脈硬化の抑制はうまくいっていません。それを口腔内細菌叢のメタゲノム解析で調べると、歯周病があっても多いのは必ずしも悪玉の菌だけではないことが分かります。動脈硬化の方とそうではない方を比較すると、明確に違うのは約400種類ある口腔内細菌の構成です。いわば口腔

内細菌叢を構成する細菌の「顔つき」がまったく違っていました。それが動脈硬化などの病気を促進させるメカニズムではないかと推察されます。

— 循環器内科の観点から、今回のブランディング事業をどのように評価されますか。

星賀 高齢化が進み循環器系の病気の構造が大きく変わってきています。そのなかで口腔の健康の状態がますます重要になっています。近年非常に患者数が増えている心不全では、口腔内の環境が予後に関わっています。口腔内の健康度を上げることが、市民の方々の健康度を上げることにつながります。

ブランディング事業のコホート研究では、細菌叢や咬合力（噛む力）、舌圧（べろの力）など口腔内のいろいろなパラメータと併せて血管の内皮機能も調べています。血管内皮機能の衰えは、動脈硬化の始まりとも言えます。今回は、血管内皮機能と口腔内の状況、また認知機能も調べているので、それらの関係を明らかにすることができますし、また運動の介入をした前後でどのように変化したかなど、これからの健康を考える上でとても有意義な研究成果が期待されます。「たかつきモデル」は健康寿命をのばすことが最終目標で、そのアプローチとして非常に理に適っています。そのプロジェクトに参加させていただいていることは、循環器医として意味深く思っています。

オミックス医療に向けて垣根のない研究をさらに発展させる

— 今後の展開について、抱負をお聞かせください。

植野 一つは学会の中では注目されている口腔内細菌と動脈硬化との関係について掘り下げていき、トップジャーナルなどに論文を投稿したいと考えています。もう一つは口腔内の病原性微生物と肺炎、糖尿病、脳梗塞、また認知症などの疾患との関係を横断的研究で広げていきます。解析方法もより精密なものにし、プレジジョン・メディシンを目指してゲノムとメタボロームの解析を進めていくなどの発展を考えています。

また、研究成果を発表して終わるわけではなく、高槻市民の方々、日本の皆さんに情報提供して、健康指数を上げるような活動につなげていきたい。そのために産官学が連携して推進することが、今後も大切だと思います。

星賀 口腔内細菌叢の乱れが、病気の本質であるとする、それをいかに是正するかがこれからの課題になります。細菌叢のメタゲノム解析は低価格でできるようにはなってきましたが、まだ気軽にできるほどではないので、もう少し簡便な方法で口腔内の健康状態が分かるようなものができれば、さらに発展することが期待されます。

また、口腔内細菌叢は細菌の種類が多いため、従来の統計手法では対応できません。全体がどう動いたかを解析

するには人間の力だけでは難しいので、この研究では機械学習の手法を一部用いています。AHAに行って一番驚いたのが、循環器分野で機械学習などの人工知能（AI）を活用した発表が多く、研究者にも工学部の人がたくさんいました。その意味で、このブランディング事業は世界でも先端をいく研究手法を用いています。

植野 全科が口腔内細菌叢をキーワードにして、オミックス医療に向けて垣根のない研究が進んでいるのが本学の強みだと思います。本学に入っていたいただいた学生の皆さんにはそうした教育・研究を提供でき、最先端の研究手法を学んでいただけたと思います。



健康寿命をのぼす 「たかつきモデル」

Interview 2

「疫学研究グループ」の主要メンバーとして「たかつきモデル」のコホート研究を牽引しておられる玉置淳子教授に、研究の進捗や今後の展開について伺いました。

医学部
衛生学・公衆衛生学 I・II 教室
教授 玉置 淳子



(写真 左から 林講師、玉置教授、神谷講師(准))

市民の皆さんと一体となった疫学調査で、 健康寿命の延伸につながる成果を出していく

——「たかつきモデル」のプロジェクトで、玉置先生の教室ではどのような研究をされているのですか。

玉置 ライフコース疫学研究として、妊婦や乳幼児から高齢者まで様々な年代の方を対象にしています。対象集団の唾液を採取して口腔内細菌叢の遺伝子データを解析し、細菌叢の形成過程や特徴を一定期間追跡するコホート研究を行っています。「たかつきモデル」での主要な研究は65歳以上の方を対象にした「シニアコホート研究」と、妊婦の方を対象にした「次世代コホート研究」です。また、コホート研究と並行して信州大学の能勢博特任教授が提唱する「インターバル速歩」を活用した運動介入の研究も行っています。

——研究の進捗について教えてください。

玉置 「インターバル速歩」は2017年11月に開始し、1期5カ月間で現在は第5期の方が取り組んでおられ、2020年11月までに300名超の方が参加される見込みです。運動介入の前後で健康調査を実施し、その効果を検証しています。「シニアコホート研究」は3回の健康調査が終わり2020年3月までに約800名の調査を完了します。「次世代コホート研究」はすでに約300人の妊婦より調査の同意を取得し、2020年3月までに妊婦・新生児約650組のリクルートを完了する予定です。この3年間で疫学調査としての土台ができました。

——コホート研究は、今後どのような成果が期待できるでしょうか。

玉置 「たかつきモデル」は高槻市という都市部の全世代を

対象とし、口腔内細菌叢解析のための唾液の収集と詳細な健康調査や運動介入をしていることが特徴で、全国でもほとんど例のない疫学調査です。病気の予防や健康の増進、健康寿命の延伸に役立つ、貴重なデータを収集できると期待されます。例えば、加齢による口腔機能の衰えはオーラルフレイルと呼ばれ、それが徐々に進行することで身体的フレイル（虚弱状態）や病気の原因になると考えられています。しかし、口腔内細菌叢とその後の病気の発生との関連は、ほとんど検討されていません。「シニアコホート研究」ではオーラルフレイルや口腔内細菌叢を調査し、5年間の追跡調査で医療費、要介護化、死亡との関連を検討していきます。

「次世代コホート研究」では母親の口腔内細菌叢や生活習慣が、妊娠中の健康状態、妊娠の転帰（妊娠合併症・早産・低出生体重など）とどのように関連するか、また母親の口腔内細菌叢と乳幼児の口腔内細菌叢の形成や成長・発達・健康状態（アレルギー・肥満など）との関連を検討していきます。特に、妊娠とその児の口腔内細菌叢の検討は、様々な研究シーズに結び付くと期待しています。

疫学調査研究は、学内はもとより研究に参加していただく方の協力がなければできません。「たかつきモデル」は、学長リーダーシップのもとで全学を挙げて取り組む事業であり、高槻市をはじめ社会福祉協議会、ボランティア団体、医師会、歯科医師会など、まさに産官学連携で多大なご協力をいただき短期間で多くの参加者を募集できました。また、ご参加いただいた方も「大阪医科大学の研究ならぜひ協力したい」と、皆さん非常に好意的でした。そうしたご協力に応えるためにも、「健康寿命の延伸」という目的に結び付くような成果を出していきたいと思えます。

01 第17回国際医学生生理学クイズ大会 (IMSPQ)で、歴代日本一の成績で予選突破

第17回国際医学生生理学クイズ大会(以下IMSPQ)がインドネシアのデポックで2019年8月21～22日に開催されました。本学からは辻畑智雄、寺井千史、中原征宣が、3人1チームで参加しました。今回のIMSPQでは、20カ国、100大学、400名を超えるアジアの医大生が集い、生理学の知識を競い合いました。予選を突破し、決勝リーグに行くためには、予選の筆記試験で上位48チームに入る必要があります。私達は予選を突破し、後日送られてきた結果では、大阪医科大学チームは全100チーム中33位であり、歴代日本一の成績を取ることが出来ました。決勝リーグでは、優勝校であるシンガポール国立大学を含む5大学と競い、惜しくも敗れてしまいましたが、歴代日本一のチームになれたことを、とても誇りに思います。IMSPQ以外では、インドネシア大学と台湾の長庚大学の医学生とショッピングモールに行ったりして、親睦を深めました。最後に、全面的に勉強をサポートして下さいました生理学教室の小野富三人教授、一緒に勉強してくれたチームの2人、サポートして下さいました全ての人に感謝の意を表します。



02 関西5医科大学 研究医養成コースコンソーシアム合宿

2019年9月14～15日、ホテルクラシア大阪ベイにて、関西5医科大学研究医養成コースコンソーシアム合宿が開催されました。合宿には、本学の他、関西医科大学、兵庫医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学の学生と教員の総勢60名が参加し、本学からは、医学部の学生8名と教員3名が参加しました。参加学生は、ポスター発表やグループワークを行い、日頃の医学研究の成果を示すとともに、他大学の学生や教員の多様な考えにも触れ、研究に対する見識をより広めることができました。今回、4年生の寺井千史さんがポスター発表のベストプレゼン賞を受賞し、3年生の福岡勇太朗さんと1年生の高橋遼さんが所属したグループが、グループワーク発表の最優秀賞を受賞しました。また、夕食会や懇親会、フリートークの場を通して、他大学の学生や教員と交流を深めることができ、参加者全員が大変有意義な合宿を過ごしました。



03 関西医科大学医学部と 単位互換に関する協定を締結

2019年9月24日、関西医科大学医学部と単位互換に関する協定を締結いたしました。2018年11月26日に中央教育審議会による「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」が答申され、「多様で柔軟な教育プログラム」の具体的方策として「大学間の連携による教育プログラムの多様化」が示されました。今回の単位互換協定締結は、双方医学部の教育改革につなげ、臨床実習を円滑かつ効果的に行うことを目的としております。本学医学部と関西医科大学医学部は、これまでも兵庫医科大学、近畿大学と連携し「4大学相互選択臨床実習」を実施してまいりました。今後、この単位互換協定も2大学間だけに限らず、より多くの大学と協力し「多様で柔軟な教育プログラム」の展開を目指します。この単位互換は、本学の「選択臨床実習」(医学部6年生)と、関西医科大学の「学外臨床実習」(医学部6年生)とで、2020年4月よりスタートいたします。



04 毎年恒例「院内コンサート」 ～秋のひと時を素敵な音楽で満喫～

2019年9月28日(土)午後2時から、附属病院外来ホールにおいて、毎年恒例の「院内コンサート」を開催しました。本学の医学部と看護学部の学生で編成される「管弦楽部」と「グリー部」による奥行ある演奏と合唱に続き、星賀正明専門教授夫妻がピアノ連弾で、多様なジャンルの曲を巧みなタッチでリズムカルに演奏され、浮村聡専門教授は、男声二重唱を披露されました。最後は、会場内の皆さんと一緒に「ふるさと」を大合唱し、終演しました。美しく奏でられる楽器や合唱の響きは、生演奏ならではの臨場感で、会場内の皆さんは、素敵な立秋のひと時を楽しめました。



05 令和元年度(第13回) 伊藤奨学基金授与式

2019年9月27日、令和元年度(第13回)伊藤奨学基金授与式が開催されました。まず初めに伊藤奨学基金運営委員長である大槻勝紀学長より本基金の原資を遺贈された伊藤龍三先生と本基金設立の経緯についてお話があり、受給者には今後ますます良き医療人を目指し、学業に精進するよう激励および祝辞がありました。その後、受給者3名それぞれに大槻学長より賞状と目録が手渡されました。賞状と目録を受け取った受給者は少し緊張した面持ちで、伊藤奨学基金受給への謝辞と今後の抱負を表明されました。最後は学長と受給者、当日出席の伊藤奨学基金運営委員全員で記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。

令和元年度 伊藤奨学基金受給者

- 1年生 高橋 遼
- 4年生 森田 潤
- 5年生 山田 紗綾



07 小野奨学会 奨学生学業成績優秀者表彰

小野奨学会奨学生学業成績優秀者(平成30年度)として、看護学部2年生の海老原滯さんが表彰されました。海老原さんは、成績が優秀で、さらに女子バレーボール部と管弦楽部にも所属し活躍されていることが認められ、今回の受賞に至りました。まさに文武両道を極めていらっしゃるというよいと思います。2019年10月7日にANAクラウンプラザホテル大阪において表彰式が開催され、公益財団法人小野奨学会の久保井一匡理事長より賞状と副賞が授与されました。海老原さんは喜びとともに、今後、社会に貢献できるように勉学に励む決意をしました。



06 令和元年度 大阪医科大学解剖慰霊祭

高槻現代劇場大ホールにおいて、2019年10月19日午後2時から本年度解剖慰霊祭を執り行いました。大槻勝紀学長から医学教育の発展に貢献、寄与していただいた方々への謝意と哀悼の意が捧げられました。導師による読経、病理学教室の廣瀬善信教授、医学部生及び看護学部生代表による祭文奉読の後、来賓のご遺族代表、行政・医療機関関係者、さつき会代表、また本学教職員、医学部・看護学部生等の参加者全員が、今日まで系統解剖、病理解剖で医学教育のために献身いただきました御霊に深謝の意を込めて、焼香を行いました。毎年10月第3土曜日に解剖慰霊祭を行いますので、学生及び教職員皆様にはご参列をお願いします。

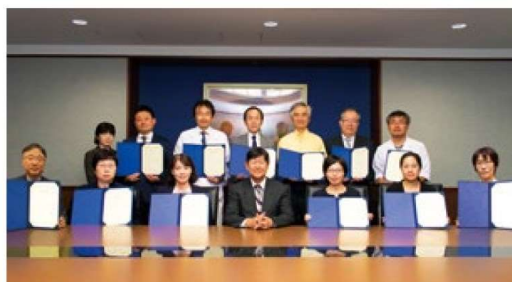


08 第3回 ベストティーチャー賞授賞式

第3回ベストティーチャー賞授賞式が、2019年10月15日、特別応接室において開催されました。授業内容や方法の改善に取り組み、学生による授業評価において高い評価を得られ、本学に多大な貢献をされた12名の教員に、大槻勝紀学長から表彰状が授与されました。受賞者を代表して、医学部の芦田明教授から「木賞を励みに、これからより良い教育の実践を目指します。」との感謝の言葉がありました。

第3回ベストティーチャー賞受賞者

- | | |
|---|---|
| <p>■医学部</p> <p>化学 教授 林 秀行</p> <p>生理学 教授 小野 富三人</p> <p>小児科学 教授 芦田 明</p> <p>小児科学 助教 松村 英樹</p> <p>産婦人科学 教授 大道 正英</p> <p>病理学 教授 廣瀬 善信</p> | <p>■看護学部</p> <p>基礎看護学 助教 原 明子</p> <p>老年看護学 准教授 久保田 正和</p> <p>精神看護学 助教 山内 彩香</p> <p>看護実践発展 准教授 府川 晃子</p> |
| <p>■看護学研究科</p> <p>急性期成人看護学 教授 赤澤 千春</p> <p>在宅看護学 教授 真継 和子</p> | |



09 大須賀翔先生が第123回日本眼科学会総会学術展示優秀賞

大学院3年目の大須賀翔先生（2012年入局）が第123回日本眼科学会総会で発表した『糖尿病ラットにおけるTGN-020硝子体注射の網膜組織への影響及び網膜浮腫抑制効果の検討』が学術展示優秀賞に選ばれ、先日の日本臨床眼科学会で受賞講演と表彰式が行われました。この研究は喜田照代講師の指導で、大須賀先生が大学院のテーマとして取り組んできたもので、水チャンネルであるアキアポリン4（AQP4）に着目し、糖尿病におけるAQP4阻害剤（TGN-020）の網膜組織に与える影響および網膜浮腫抑制の可能性について検討したものです。その結果、TGN-020にはVEGF阻害薬と同様に、糖尿病における網膜浮腫の抑制効果を示す可能性が示唆され、抗VEGF療法とは違った作用機序の薬剤として期待されます。



11 令和元年度第1回臨床研究教育研修会

令和元年度第1回臨床研究教育研修会を2019年10月25日に開催しました。吉田雅幸・東京医科歯科大学生命倫理研究センター長を講師にお迎えし、「研究倫理指針の改正とこれからの医学研究」と題し講演いただきました。がんゲノム医療が推進されるなかゲノム研究も活発化し、この状況を反映するため現在検討が進められている研究倫理指針の改正内容や、バイオバンク事業への倫理支援について、また、昨年より施行された臨床研究法について詳細に解説いただきました。講演後は、研究者を日々悩ませている事例等の質問に対し説明いただき、有意義な研修会となりました。当日に参加できなかった方を対象に翌月2回DVD講習会を開催し、昨年を大きく上回る、計390名に参加いただきました。臨床研究の実施にあたり、一助となりますと幸いです。



10 大森実知先生が第64回日本口腔外科学会優秀ポスター発表賞(ゴールドリボン賞)

2019年10月25-27日札幌コンベンションセンターで開催された第64回日本口腔外科学会総会・学術大会で「Exploratory research on the relationship between oral microbiome and arteriosclerosis using next-generation sequencer」について発表し、優秀ポスター発表賞(ゴールドリボン賞)を受賞しました。今回の発表は次世代シーケンサーを用いた口腔内細菌叢と動脈硬化との関連を明らかにしたもので、動脈硬化症患者の口腔内微生物叢が健常者とは異なっていることを発表しました。動脈硬化に特徴的な細菌(属レベル)25種類によって動脈硬化症患者と健常者の判別ができることがわかりました。これは今後、動脈硬化症のバイオマーカーとしての口腔内微生物叢の可能性を示しています。今回の成果は、現在学内の複数の教室と共同で進めている細菌叢研究にとって大きな弾みとなる成果となりました。今後も引き続き全身疾患と細菌叢との関係を解析し報告させていただきます。



12 令和元年度(第14回) 鉤奨学基金授与式

2019年10月31日、令和元年度(第14回)鉤奨学基金授与式が開催されました。まず初めに鉤奨学基金運営委員長である大槻勝紀学長より本基金を設立された本学名誉教授の鉤スミ子先生についてのお話と、本基金設立の経緯についての説明がありました。続いて大槻学長より鉤奨学基金奨学金を受給した女子学生2名、並びに鉤奨学基金研究助成金を受給した女性研究者2名、計4名の受給者それぞれに対して祝辞がありました。その後、受給者に大槻学長より賞状と目録が手渡されました。賞状と目録を受け取った受給者は鉤奨学基金授与に対する謝辞と今後の抱負を述べました。式の最後に記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中で閉会となりました。

令和元年度 鉤奨学基金受給者

■奨学金

2年生 平井 咲帆

6年生 久保 舞花

■研究助成金

産婦人科学教室 診療准教授 林 正美

医療統計室 准教授 伊藤 ゆり



13 2019年度学園祭開催

本年度の大阪医科大学学園祭は『LINK』をテーマに2019年10月26日(土)、さわらぎキャンパスにおいて開催されました。

大槻勝紀学長、看護学学生生活支援センター委員の津田泰宏先生の挨拶でスタートし、プリキュアショー、空手道部演舞、ダンス部発表、タレントの佐野ひなこさんのトークショー、軽音楽部の演奏、学生イベント、よしとお笑いライブ、抽選会などで賑わいまし

た。よしとお笑いライブでは、大人気のアインシュタインとアキナの出場により、夕方ごろから女性ファンが多く集まりました。また、本学と大阪薬科大学の学友会が話し合いを重ね、それぞれの学園祭で出店を行い、2021年度の大学統合へ向けての一歩を踏み出すことができました。



14 令和元年秋の叙勲

2019年11月3日付で発令されました令和元年秋の叙勲で、本学名誉教授の宮崎瑞夫先生が、瑞宝小綬章を受章されました。

○宮崎瑞夫名誉教授

徳島大学医学部医学科卒業
大阪市立大学大学院医学研究科
博士課程修了

医学博士の学位授与
大阪市立大学助手
大阪市立大学講師
滋賀医科大学助教授
大阪医科大学教授(薬理学)

現在、大阪医科大学名誉教授、清恵会医療専門学院院長
在職中に、大阪医科大学医学情報処理センター長、大阪医科大学
大学実験動物センター長を務める



訃報

2019年11月15日、名誉教授の
阿部宗昭先生が満78歳でご逝去
されました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。



15 令和元年度名誉・功労教授 懇談会

令和元年度名誉・功労教授懇談会は、伊藤裕子功労教授に懇談会世話人をご快諾いただき、2019年11月9日(土)リーガロイヤルホテルイタリアンレストラン「ペラ コスタ」において10名(名誉教授9名、功労教授1名)ご出席のもと開催されました。記念集合写真を撮影後開会され、近況報告等があり、昼食の後もゆっくりご敬談されました。



16 女性医師支援センター 開設一周年記念講演会

女性医師支援センター開設一周年記念講演会が2019年11月5日（火）講義実習棟第1講義室にて開催されました。岡山大学医療人キャリアセンター MUSCATセンター長で厚生労働省の医師の働き方改革推進委員でもある片岡仁美教授から「大学病院における医師の働き方を考える」と題し、岡山大学病院のさまざまな取り組みや今後の国策の方向性など大変分かりやすくお話いただきました。

当日は50名を超える教職員が聴講し、片岡先生の「人種、性別、年齢など目に見える表層のダイバーシティから、生き方、考え方、心情など目に見えない深層のダイバーシティに深化する



ためには多様な人材が職場に存在して頭ではなく心で相手と分かり合うことが第一歩である」とのお話に深く感銘を受けていました。センターとしては岡山大学の取り組みから学び、まずはできることから始めていきたいと思っています。引き続きご協力のほど宜しくお願いいたします。



17 第4回大阪医科大学市民公開講座・ 第5回高槻市民いきいき健康講座を開催

2019年11月16日（土）に「第5回高槻市民いきいき健康講座」を「第4回大阪医科大学市民公開講座」との共催として開催しました。当日は、来場者数約250名を数え、本会場（看護学部講堂）がほぼ満席となり、盛況な講座となりました。開会の挨拶を濱田剛史高槻市長、金田忠行高槻商工会議所会頭そして大槻勝紀学長よりいただき、その後、特別講演に入りました。1つ目は、本学附属病院化学療法センターの後藤昌弘センター長が「令和時代のがん化学療法」と題して、最新のがんゲノム医療について、がん医療の現状を解りやすく講演していただきました。2つ目は、静岡がんセンター歯科口腔外科の百合草健志部長より「がん治療とお口のケア」の題目で、口腔内を清潔にする口腔ケアは、がん治療において患者を支える大切な治療行為であることの講演をいただきました。そして、薬剤師・看護師からのお役立ち情報として樋口沙織薬剤部主任と菊尾雅子看護部主任それぞれから、がん治療でお口が痛いときの薬の工夫や、看護部で行う口腔ケアについて講演していただき、講演会終了後はお薬相談会と看護相談会を行いました。最後は、牧山義仁サンスター財団理事長の閉会挨拶をいただき、終了時の大きな拍手から、高槻市民の健康意識が更に高まった雰囲気を感じての閉会となりました。この健康意識の高さと期待にこたえるように「健康寿命をのばすたかつきモデル」を継続していきたいと思えます。



濱田市長

後藤先生

百合草先生

18 臨時FD「研究活動に対する本学の取組姿勢」

2019年11月20日（水）午後5時から看護学部講堂において「研究活動に対する本学の取組姿勢」をテーマとする臨時FDを開催しました。冒頭で大槻勝紀学長より、新聞紙上で報道された本学実験動物部門の実験施設内において再生医療等安全性確保法の違反とされる再生医療が行われたこと、そして、本学のガバナンスが問われている緊急事態であり、そのために臨時FDを開催するに至ったことについての説明がありました。引き続き、実験動物部門の根本慎太郎部門長より「研究活動における不正事例への対応」として報道のあったこれまでの経緯に関する詳細説明があり、研究推進部門の高井真司部門長より「研究活動における本学の取組」として研究活動を進めていくうえで理解しておかなければならない実験

ノート及び法令遵守についての講義がありました。本邦における研究不正のほとんどは、論文の捏造・改ざん・盗用あるいは公的研究資金の流用であり、それらについては本学でも対策済みです。今回の事件が発生したことにより、不測の事態が発生した場合にも対応可能な組織の改革及び規程等の見直しを図っているところですが、今後の対策として何よりも重要なことは、大学院生を含む研究者の再教育であり、二度とこのようなことが発生しないような体制の強化に取り組むことです。今回の臨時FDはそれらのことについて大学が丸となって考え直さなければならない機会となりました。これからは研究者に対するコンプライアンスに関するFDを推し進めます。



医療統計室(室長・准教授)／伊藤ゆり

19 医療統計室の伊藤ゆり准教授が「第8回健康寿命をのぼそう!アワード」の厚生労働省健康局長優良賞を受賞

医療統計室の伊藤ゆり准教授がケムラン～屋内完全禁煙の飲食店を応援する会への代表として実施した「みんなで作るケムランガイド」の取り組みが評価され、厚生労働省が主催する「第8回健康寿命をのぼそう!アワード<生活習慣病予防分野>」の厚生労働省健康局長優良賞を受賞しました。飲食店における受動喫煙防止を地域・社会全体で応援するアクション・リサーチが、地域におけるヘルスプロモーション活動の新しい形として高く評価されました。



学務部学務課

20 医学教育センター教員・医学学生生活支援センター教員と学生代表の懇談・懇親会開催

2019年11月28日（木）、新講義実習棟P101講義室にて、「医学教育センター教員・医学学生生活支援センター教員と学生代表の懇談会」が開催されました。大槻勝紀学長、医学教育センター教員、医学学生生活支援センター教員と各学年代表者の学生との忌憚のない意見交換がなされ、予定の時間を30分超過した頃、医学教育センターの寺崎文生副センター長の「続きは親睦会で!」との掛け声で懇親会会場へと移動しました。懇親会は普段は学生しか利用することのできない新講義実習棟8階の学生ラウンジにて開催され、夜景を眺めながら教員と学生が語り合いました。閉会後も大槻学長をはじめ他の教員や学生たちが8時過ぎまで残り、有意義な交流の場となりました。



21 第17回SGH特別賞を受賞

関西BNCT共同医療センターの小野公ニセンター長が第17回SGH特別賞を受賞しました。この賞は公益財団法人SGH財団が、がんの研究者及び医療従事者の励みとなることを目的として、がんの基礎、臨床研究に顕著な功績を挙げ、かつ今後の発展が期待される研究者を対象に表彰を行っているものです。今回の受賞は、「原子炉中性子によるホウ素中性子捕捉療法（BNCT）研究と加速器中性子システムによる高度化」の研究による功績が認められたものです。授賞式は2019年11月30日、ホテルグランヴィア京都で行われました。



22 本学医学部医学科学生が「第41回学校茶道エッセイ」優秀賞を受賞

本学医学部医学科3年生で茶道部主将の田浦広大さんが「第41回学校茶道エッセイ」で優秀賞を受賞しました。「私が思う、現代における茶道の意味」というエッセイです。詳細は裏千家ホームページより閲覧可能です。

<http://www.urasenke.or.jp/textm/headq/recruit/gakucha/essay/happyo41.html>



23 令和元年度 実験動物慰霊祭

2019年12月7日(土)午後1時から本学講義実習棟第1講義室にて令和元年度実験動物慰霊祭が行われました。当日は、近藤洋一動物実験委員会委員長による祭文奉読の後、看護学部長代行として津田泰宏教授、林秀行図書館長、近藤動物実験委員会委員長、実験動物部門長代行として永塚健宏特務助教による代表焼香を行いました。その後、約50名の参列者全員が焼香を行い、医学・医療の発展と研究に貢献・寄与した多数の実験動物の御霊に謹んで感謝と敬意の念を表し、実験動物の冥福を祈りました。本学の実験動物慰霊祭は毎年12月第1土曜日の午後1時から行っております。本学教職員の皆様には、是非、足をお運びいただき、尊い命に感謝の祈りを捧げていただければと思います。



24 第9回 FD&SD「教育・研究集会」

2019年12月11日、新講義実習棟P101講義室において、第9回FD&SD「教育・研究集会」を開催しました。教職員・学生を含め、総勢151名が参加し、大槻勝紀学長から本年度の学長行動目標として、「国際化」「大阪薬科大学との統合」について説明がありました。続いて、寺崎文生医学教育センター副センター長から「PostCC-OSCE ～国試になるのか!?～」、瀧谷公隆医学教育センター副センター長から「アドバンスト クリ・クラ ～大きく変わるクリ・クラ～」、中野隆史医学教育センター副センター長から「学生研究 ～学生に求める医学研究～」、植野高章中山国際医学医療交流センター長から「教育の国際化 ～海外学生の求めるクリ・クラ参加～」、小野富三人学長補佐から「科研費に関する取組強化」「投稿論文に対する支援制度の導入」について説明がありました。教員・学生から複数の質問があり、活発な意見交換が行われると共に、実施したアンケートにおいて多数の意見が寄せられました。今後も大槻学長の教学改革方針のもと、学生及び教職員への情報共有と意見交換のために、本集会を継続して実施する予定です。



25 高等教育の修学支援新制度について

本学は、2020年4月から実施予定の高等教育の修学支援新制度の対象機関（「大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）」による修学支援の対象機関となる大学等（確認大学等））として、文部科学省に機関要件の確認を受け、2020年度の対象校となりました。

本制度は、給付型奨学金と授業料減免の2本柱からなっており、2020年度本格実施に先立ち、本学に通う在学生向けの在学予約採用の募集を実施いたしました。また、当該制度導入にあたり、入学金及び授業料納入の取り扱いを以下のとおり行うことといたします。

■ 受験生・入学予定者への対応

入学金	入学試験要項に記載の納入期限までに全額を納付していただく必要があります。減免認定後の金額ではありませんので、ご注意ください。 なお、当該入学金の減免につきましては、本学入学後、所定の手続きを経て減免相当額を還付いたします。
授業料	所定の手続きにより授業料等（授業料以外の納入金を含む）の納入期限を入学後まで猶予いたします。入学後、本制度所定の手続きを経て決定する減免区分に応じた減免認定後の金額を納入いただくこととなります。

■ 在学生への対応

授業料	修学支援制度（給付奨学金・授業料減免）の適用を希望する学生は、本学が定める所定の期間内に申請を行う必要があります。申請に基づき、授業料を含む学費の納入期限を猶予いたします。本制度所定の手続きを経て減免区分を確認後、減免後の金額を納入いただくこととなります。
-----	--

ホームページ上の情報を随時更新していく予定ですので、申請を希望される方は、ご確認をお願いいたします。
<https://www.osaka-med.ac.jp/campuslife/koutoukyouikusinseid.html>



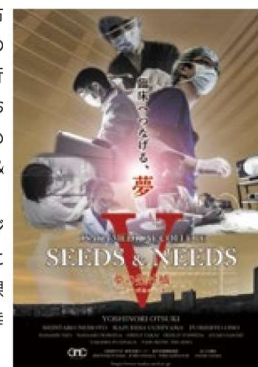
26 台北医学大学からの感謝状贈呈式

看護学部では毎年、台北医学大学からの研修生を受け入れています。附属病院や高齢者ケア施設等での研修に加えて、高槻市民との交流を通じて住民主体の健康づくり活動を学ぶ機会を設けています。今年度もその研修受け入れ先である聖ヶ丘老人クラブによる「聖まます元気会」（高田辰義会長）にお世話になりました。このグループは高槻市の「高槻まます元気体操」や「元旦以外364日」のラジオ体操等による地域での健康づくりを実践されておられます。今年度の研修の際に、メンバーの一人から台湾駐在時代に集めた貴重な記念切手を台湾に戻したいとの思いから、研修生に切手集を贈りたいのお申し出がありました。研修生は持ち帰り、郵便博物館とコンタクトをとる等のプロセスを経て、最終的に台北医学大学にて大切に保管されることとなり、台北医学大学から贈呈者の笠井勝夫様と大阪医科大学に感謝状が贈られ、12月16日に学長室にて贈呈式が執り行われました。SNSが普及し手紙を書いて切手を貼る経験が少ない若い世代が、日本の住民との交流を通じて母国の記念切手から歴史と文化を学習する機会ともなり、本研修が保健医療の学習のみならず古きよきものを通じた異文化交流にもつながりました。今後も充実した研修を提供していきたいと思っております。



27 「研究シーズ&ニーズ集(第5版) 夢の架け橋」発刊に寄せて

2013（平成25）年7月に初版「研究シーズ集 夢の架け橋」を発刊し、この度「研究シーズ&ニーズ集（第5版）」を発行しました。最初は、研究シーズ集を発行している大学も少なく、先生方の理解を得ることからスタートし、原稿集めにも苦労しました。初版は約40ページで研究シーズが主でしたが第3版より現在と同じ「研究シーズ&ニーズ集」となりました。第5版はページ数も2倍近くになり、シーズ、ニーズ以外に研究拠点・研究機器紹介、各教室の研究テーマ等を掲載しています。本学の研究が多岐に亘り、研究シーズ集を橋渡しに、多くのAMED補助金等を獲得するなど、治験から上市間近の医療機器まで開発の環が広がっています。発行部数も当初の500部から1000部に増刷し、イノベーション・ジャパンやメディカルジャパンの出展ブースで配布する等、更なる産学官連携の環が広がっております。発行の度に紙面の充実を図っており、第5版ではぜひ表紙にもご注目ください。研究シーズ&ニーズ集（第3版）（第4版）は研究推進課のホームページに掲載されています。内容に関するご意見等は研究推進課までお寄せいただけますと幸いです。



28 国際交流

中山国際医学医療交流センターは、本年度、**1**交流校の拡充、と、**2**学生交流の質の向上を目標に掲げ、国際交流を推進してきました。**1**交流校の拡充については、2019年5月のミネソタ州立大学マンケート校との提携に続いて、北京大学深圳医院との協定を締結しました。また、**2**学生交流の質の向上については、大学院生の交流として、さくらサイエンスプランの実施と医学部留学生臨床・クラークシップのプログラム内容を刷新しました。

1 北京大学深圳医院との協定締結

2019年9月15日に大槻勝紀学長が深圳医院を訪問し、研究分野における協定を締結しました。深圳医院は北京大学が持つ10の附属病院の一つで、中国において最先端の医療の提供と国内外の大学との連携をもとに中国の医学における研究、教育をけん引するトップレベルの病院です。本学とは研究分野での連携を図り、アジアの医療への貢献をしていきます。今後、本学と北京大学医学部との国際交流を目指します。

**2-1** さくらサイエンスプランの実施

3年連続でJST科学技術振興機構助成プログラム「さくらサイエンスプラン」に本学のプログラムが採択されました。今年度は、国立台湾大学大学院歯学研究科の大学院生5名と准教授1名を招聘し、「アジア高齢化社会における口腔内細菌叢ゲノム解析と循環器疾患予防プログラム」を、2019年12月1～7日の日程で実施しました。本学がすでに着手している産学官連携プロジェクト「たかつきモデル」をベースに、ゲノム解析や循環器疾患と口腔内細菌叢との関連についての講義だけでなく、サンスターの工場、大阪大学微生物病研究所の見学を行いました。今後、両大学の医歯学連携を視野に共同研究の立ち上げを協議していきます。

**2-2** 医学部留学生臨床・クラークシップ新方式の実施

2020年度4月から始まる国立台湾大学医学部との「選択臨床実習」での単位互換を念頭に、医学教育センターと協同し、交流校留学生の臨床・クラークシップの方式を刷新しました。これまで、1日単位で様々な科を見学する形で留学生のプログラムを実施していましたが、臨床教室のご協力のもと、留学生の希望をベースに1科2週間の実習トライアルを実施しました。新方式の臨床・クラークシップは、留学生の学びの質を確保するとともに、本学学生と共に実習を実施することによって、本学学生の国際交流の機会を増やし、グローバルな視点を持つ医療者育成の一翼を担っていきます。



29 令和元年度年賀交歓会

日時：2020年1月6日（月）午後1時
場所：歴史資料館 大学院多目的講義室

役員及び名誉教授をはじめ多数の教職員が参加しました。最初に植木實理事長から年頭のご挨拶があり、法人の一層の発展に向けた各学校・各病院の運営や事業の進め方、ガバナンス強化等の課題について述べられた後、本年のスローガン「Society5.0の実践」の下、スーパースマート教育・研究・医療を継続していくことが示され、社会の公器である本法人の教職員にはSSDによるさらなる成長を期待する旨のお話がありました。続いて、濱岡純治理事長補佐・副理事長から、多くの課題を着実に実行するためには法人全体の収益が重要になること、「工学統合」、「大阪薬科大学の運営」、「法人財務」を担当し、植木理事長を今まで以上に支援する旨のご挨拶がありました。また、佐野浩一副理事長からは、今年の干支「庚子」に因んで、様々な事柄を実現するための芽吹きの準備をしていただくことを期待する旨のご挨拶がありました。最後に、大槻勝紀学長から、教職員の健康と発展を祈念して乾杯のご発声があり、会場は年賀交歓の場になりました。



31 市民公開講座開催報告

- 第3回市民公開講座
2019年9月21日(土) 新講義実習棟P101
『進化する心臓弁膜症手術：弁置換・弁形成・カテーテル手術(TAVI)』
胸部外科学教室 小澤 英樹
- 『心臓の病気に使う抗凝固薬のお話』
病院薬剤部 外山 詩葉
- 『弁膜症手術後の日常生活のポイント』
病院看護部 生田 美穂



小澤講師

当日は、90名の方にご来場いただきました。

- 第5回市民公開講座
2019年12月21日(土) 看護学部棟講堂
『人生100年時代に備えた心臓リハビリテーション』
リハビリテーション医学教室
土井 あかね、原田 知佳
- 『心臓の機能を維持するお薬の話』
病院薬剤部 勝部 桃代
- 『心臓リハビリテーションを受ける方の日常生活について』
病院看護部 兒島 理沙



土井講師

当日は、61名の方にご来場いただきました。

※ 第4回は、「高槻市民いきいき健康講座」と共催

30 2019年度 第71回西医体について

2019年度第71回の西日本医科学生総合体育大会の入賞は、次のとおりです。総合成績は、44大学中18位でした。

クラブ名	種目	順位
ゴルフ	男子団体	4
	女子団体	3
	女子個人(3年/熊谷有紗さん)	2
水泳	男子200m個人メドレー(4年/西口諒さん)	7
スキー	女子	1
	男子	2
ソフトテニス	女子個人(4年/谷萌子さん・2年/上林史佳さんペア)	1
陸上	男子100m(2年/松本光司さん)	5
	男子100mリレー(2年/辻翔平さん→6年/篠原涼さん→3年/氷置佳也さん→2年 松本光司さん)	4
ラグビー		4



32 女性のトータルヘルスケアを目指して

日本女性医学学会は更年期・老年期の生理、病理及び実地臨床に関する研究の進歩・発展を図ることを目的とした学会です。産婦人科学教室の大道正英教授は、その学会賞を受賞しました。幅広い女性のライフステージにおける各種疾患の管理は、女性をトータルにヘルスケアする意味において重要で、産婦人科学教室のコンセプトでもあります。大道教授らは、女性ホルモンであるエストロゲン、プロゲステロンおよび選択的エストロゲン受容体調節薬（ラロキシフェン）の各種臓器および疾患におけるの多面作用および分子メカニズムを研究してきました。さらには、婦人科悪性腫瘍の治療が進歩しがんサバイバーが増えてきている昨今、がん治療のみにとらわれることなく、トータルにヘルスケアする必要性が増えています。そこで、有経女性に対する婦人科悪性腫瘍手術後の補助療法が血管、骨、脂質などへおよび影響をも検討しています。学会賞受賞講演では以上の内容を発表しました。



33 多職種連携・シミュレーション教育

❶ 欧州医学教育学会での「日米合同医学教育ワークショップ」開催

2019年8月26日にオーストリアのウィーン国際センターで開催された欧州医学教育学会(AMEE2019)で日米合同医学教育ワークショップを開催いたしました。このワークショップのテーマは、「Followership-The Forgotten "Key to Leadership"」であり、多職種連携や急変対応教育が必要であるリーダーシップやフォロワーシップ育成におけるシミュレーション教育の意義を提示しました。当日は、留学先でご指導をいただいたハワイ大学シミュレーションセンターのBenjamin.W.Berg教授らと共

に数十名の世界各国の参加者とワークショップを行いました。本学初の世界レベルの教育ワークショップ開催であり、今後とも医学教育国際交流の観点から継続していききたいと考えます。



❷ 2019年度研究拠点育成プロジェクト第一回医薬看融合教育研究会の開催

2019年9月9日に新講義実習棟で第一回医薬看融合教育研究会を開催しました。この研究会の目的は、大学統合と多職種連携教育推進へ向けて3学部教員がそれぞれの教育特徴と課題を共有することを目的としました。最初に医学教育センター副センター長の寺崎文生専門教授から、研究会の趣旨が説明されました。医学部からは私が「診療参加型実習の導入とシミュレーション」、大阪薬科大学薬学部からは角山香織准教授が「薬学教育の現状と課題」、看護学部からは「看護教育の現状と多職種連携教育への期待」を述べ、閉会の挨拶を佐々木綾子看護教育センター長にいただきました。本学のFaculty Development(FD)講習会および第84回医学教育ワークショップとして認定された本研究会に

は、医学部看護学部教員、事務職員だけでなく、大阪薬科大学などから多数の参加をいただきました。この研究会は、令和元年度の大阪医科大学研究拠点育成プロジェクトとして、「シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して～」の一環として行いました。



❸ 第88回医学教育ワークショップ【教員による模擬患者育成を考える】：岐阜大学医学教育開発研究センター 藤崎和彦センター長講演会開催

2019年11月5日新講義実習棟で「教員による模擬患者育成を考える」に関する講演会を第88回医学教育ワークショップとして開催しました。今回は、私が臨床実習後OSCEの概要に関して説明した後、岐阜大学医学教育開発研究センターのセンター長である藤崎和彦教授にお越しいただき、学内模擬患者の注意点に関するご講義をいただきました。本講演会には多くの医学部教員、事務職員の参加をいただきました。2020年度から医学部の卒業要件の一つとなる臨床実習後OSCEが正式実施されま

す。臨床実習後OSCEの円滑な施行には模擬患者育成は必須となります。本講演会の内容を十分に活用し、日本をリードする臨床実習後OSCEを導入できるように鋭意努力いたします。



❹ 2019年度研究拠点育成プロジェクト：シミュレーション教育法講習会(全2回)の開催

2019年11月19日、26日に「シミュレーション教育法講習会」を新講義実習棟で行いました。テーマは、①シミュレーション教育の原理、設計と進め方 ②シミュレーション教育法におけるデブリーフィングとフィードバックとしました。本学のFaculty Development(FD)講習会として認定された本講習会には、医学部看護学部教職員、病院職員多くの参加をいただきました。この講習会は、令和元年度の大阪医科大学研究拠点育成プロジェクトとして、「シミュレーションを活用した多職種連携教育支援体

制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を日指して～」の一環として行いました。大阪医科大学にシミュレーション教育法が根付き、さらなる医学教育の発展につながるように継続開催できるようにしたいと思います。



❺ 大阪医科大学研究拠点育成奨励助成事業「多職種連携教育とシミュレーション教育法」第8回講演会(鈴木康之先生)

2019年12月13日新講義実習棟で「多職種連携教育とシミュレーション教育法」に関する第8回講演会を開催しました。今回は、岐阜大学医学教育開発研究センターの鈴木康之教授(日本医学教育学会理事長)にお越しいただき「医学教育の展望と課題」に関する総論をお話いただきました。長年にわたり、本邦の医学教育界を牽引されてきた鈴木康之教授のご講演は非常に意義深いものでした。本学のFaculty Development(FD)講習会および第90回医学教育ワークショップとして認定された本講演会には、医学部看護学部教員、病院職員、事務職員、医学生だけでなく、大阪薬科大学からも多くの参加をいただきました。この講演会は、令和元年度の大阪医科大学研究拠点育成プロジェクトである「シ

ミュレーションを活用した多職種連携教育支援体制の構築～医看薬融合教育のユビキタスな普及を目指して～」の一環として行いました。



34 眼科学教室の池田恒彦教授が第22回『盛賞』を受賞

『盛賞』は毎年1名、日本の網膜硝子体領域に最も貢献した人が選ばれる権威あるAwardで、第22回は本学眼科学教室の池田恒彦教授が受賞者に選ばれました。2019年12月に長崎で開催された日本網膜硝子体学会総会で表彰式ならびに受賞講演がありました。学会場のメインホールは満席で、最初に平形明人教授（杏林大学）による池田教授のご紹介と理事長の小椋祐一郎教授（名古屋市立大学）から表彰状授与があり、引き続き、池田教授による受賞講演が行われました。講演タイトルは『黄斑疾患と神経新生』で、中心窩には網膜幹細胞が存在し神経新生が生じているのではないかという仮説に基づいて以前から継続されている研究の内容と、黄斑前に存在する特異な硝子体構造物であるbursa premacularisと肥満細胞およびリンパ組織との関連について講演されました。講演終了後、たくさん先生方より絶賛の声があがっていました。



35 中国山西医科大学からの教員研修受け入れ

今年で、4回目となる中国山西省の山西医科大学看護学部教員・第一病院看護師長2名の日本での研修（2019年11/25-12/23）が終了しました。今年度は、継続看護の中核である専門医療機関で研修を行い、継続看護システム・地域包括システムと看護職者の役割や施設の特徴を学びました。中国においても日本と同様に少子高齢化社会への対応が喫緊の課題とされています。例えば、日本でのケアマネジャーの調整役割、多職種との連携・協働の実践の体験は、「目からうろこ」といわれました。山西医科大学第一病院では、看護職者の100%が大学卒業で、そのうち約20%が修士の学位を取得しているそうです。今回の研修生2人も修士の学位をもち、積極的な姿勢で研修に取り組み、日本での研修経験を教育や現場にぜひ活かしていきたいと話されていました。私たちが、研修受け入れを通じて相互交流する中で、中国の看護事情を学び、日本の看護の「課題や強み」を再認識させてもらっています。



【左から】
劉さん(通訳者)
田さん(研修生)
李さん(研修生)
【ピンクの上着】
白川施設長
角本様
(研修指導責任者)

36 令和元年度 田中忠彌国際交流基金授賞式について

日時：2020年1月24日（金）午前11時
場所：歴史資料館 大学院多目的講義室
令和元年度田中忠彌国際交流基金授賞式が、寄付者（故田中忠彌名誉理事長の御遺族：田中清子様、田中和子様）のご臨席の中、開催されました。最初に受賞者である脳神経外科教室大学院生の井畑知太氏、血液浄化センター助教(准)・大学院生の堤岳之氏へ賞状が授与され、植木實理事長・本基金運営委員会委員長からご挨拶として、本基金設立の趣旨及び謝意が述べられ、本基金を通じて本学の医師・看護師が一人でも多く海外へ留学され、成果を持ち帰って本学の研究レベルを高めていただきたいとお言葉と受賞者への激励があり、引き続き、大槻勝紀学長・本基金審査委員会委員長から選考の経緯の報告がありました。また、寄付者・本基金運営委員会委員の田中和子様から若い先生方のご活躍のお手伝いができることを嬉しく思う旨のご祝辞をいただき、受賞者から謝辞と抱負が、所属長の鱗淵昌彦教授、東治人教授から感謝の気持ちが述べられ閉会しました。



37 ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金・研究成果報告会

2019年度ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金授賞式を1月24日、寄付者・本基金運営委員及び審査委員のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社代表取締役社長桐谷重毅様ご出席のもと開催し、泌尿器科学教室の松永知久助教(准)と一般・消化器外科学教室の松尾謙太郎大学院生に賞状が授与されました。植木實理事長・本基金運営委員会委員長が基金の設立趣旨と歴代受賞者についてお話しされ、大槻勝紀学長・本基金審査委員長が選考の経緯を報告されました。続いて桐谷社長から祝辞を頂き、受賞者には研究成果を上げるとともに、留学体験を後輩に伝えていくことで海外に出ていく機運を高める役割を期待していると述べられました。最後に受賞者が謝辞と抱負が、所属長の東教授、内山教授から感謝の意が述べられました。その後、研究成果報告会を開催し、泌尿器科学教室の高井朋聡非常勤医師が海外留学の研究成果を報告しました。



海外留学

Study abroad

整形外科学教室
藤城 高志 助教

2016年の6月から2年間、フランスのボルドーにある Bordeaux University Hospital Spine Unit 1 に臨床留学させていただいています。

Jean-Marc Vital教授が主催するこの教室は(2017年からVital教授は退官され、現在はOlivier Gille教授が主催)、現在世界中で注目されている脊柱変形治療に関して数多くの新しい概念を生み出してきたリーダー的存在です。フランスでも脊椎外科における名門中の名門であり、3人の教授、5人の外科医、そして半年毎に入れ替わる5-6人のインターンで構成され、年間約2000件の脊椎手術が行われています。また、ヨーロッパに限らず、常に世界中から多くの留学生がやって来ます。私は手術の勉強の傍ら、脊柱変形の手術適応を確立するプロジェクトの一



Dr. Ibrahim Obeidとの手術中



Spine Unit 1の面々

端を担っていました。ヨーロッパの脊椎センターのデータを解析し、計3本の論文を発表することができました。

島国の日本に過ごしてきた者にとって多くの国が地続きの国境で接するヨーロッパは、多種多様な人種と文化が交流する不思議で魅力的な場所です。フランスに滞在中は手術や研究、また留学生との交流で様々な経験をすることができましたが、休みのたびに家族とヨーロッパ中を旅したことが、一番かけがえのない思い出です。本学で学ばれる方には、留学して海外で生活することも是非視野に入れていただければと思います。



ブルス広場の水鏡にて

OMC NEWS

次号おしらせ

大阪医科大学学報は本冊を最後に、次号よりデジタルパンフレット版のみの発行となります。学内外を問わず、より多くの人へと大学の情報を発信いたします。ご期待ください。



学報掲載ページ <https://www.osaka-med.ac.jp/about/pr/index.html#hdg6>

学報の発行通知を希望される方は、右記QRコードから空メールを送信してください。学報発行の時期になりましたら、メールにてご連絡いたします。※ご登録いただいたメールアドレスは、学報発行のお知らせ以外で使用いたしません。

ご登録アドレス ドメイン設定 @osaka-med.ac.jp が受信出来るように

「携帯電話から空メールを送ったけど何の返信もありません」「登録したはずなのにメールが届かない」等の場合、ご利用の携帯電話、スマートフォンの迷惑メールフィルター設定によりブロックされている可能性があります。ドメイン設定にて @osaka-med.ac.jp からのメールが受信できるよう設定をお願いいたします。





未知の世界を切り拓き、
世界の最先端で競争できる
独自性のある研究に取り組む

生理学教室には、遺伝的な家系で分けられたゼブラフィッシュが100台余りの水槽で1,000匹以上飼育されています。世界最大規模の生命医学研究機関である米国国立衛生研究所（NIH）で室長を務められた小野富三人教授は、このゼブラフィッシュを使った神経系を中心とした研究に一貫して取り組んでおられます。本学の研究環境は「多彩なバックグラウンドを持つ人材が集まって刺激的」と、消化管の蠕動運動ぜんどうのメカニズムなど新しい研究テーマにも果敢に挑まれています。

今回の訪問先

生理学教室

教授 小野 富三人

——生理学とはどのような教育研究分野ですか。

ノーベル賞の医学部門が「ノーベル医学・生理学賞」であるように、ノーベル賞が創設された当時、生理学は医学と対比するものと認識されていました。つまり、病気になった時に何が起きてどう治療するかを研究するのが医学で、生理学は病気になる前に人体はどう動いているか、どう機能しているか、正常な状態を調べるという位置づけでした。それが生理学の原点で、その後細分化して深化していきます。医学部の教育研究においては、病態生理を理解するための基礎であるだけでなく、個々の細胞、また有機的総合体としての個体がどのようなメカニズムで機能しているか、その根源的な原理を

追求する非常に大事な学問分野です。

——医学部に入られた当初から、生理学の研究を目指されていたのですか。

本学の学生の皆さんは医師になるという意志をしっかりとっていて、それはとても素晴らしいと思います。私の場合、明確なビジョンがあって医学部を目指していたわけではなく、漠然と人体の研究、特に脳に興味を持っていました。脳研究にはいろいろなアプ



ローチがありますが、医学部で研究するのが一番直接的です。初期研修で内科の臨床を経験し、大学院の脳研究室に進みました。しばらくして、ニューヨーク州立大学への留学の話があり、2、3年のつもりで渡米したのですが、人生は分からないもので、結局17年間米国で研究に没頭することになりました。

—— **主要研究テーマである「ゼブラフィッシュを実験系として、神経筋接合部をモデルとしたシナプスの研究」は、米国で出会われたのですね。**

ニューヨークでゼブラフィッシュを使った神経系の研究テーマに出会い、これまで知られていなかった面白い研究成果を出せました。その後、フロリダ大学、ワシントンD.C.の米国立衛生研究所(NIH)と場所は移りましたが、研究テーマは神経系の研究で一貫しています。

—— **どのような研究でしょうか。**

神経筋接合部は、運動神経が筋肉を縮める時のつなぎ目になります。そのメカニズムがブロックされて起こる四肢の麻痺などの病気もありますし、逆にブロックする作用を利用して、手術中に患者さんが動かないようにする筋弛緩剤などが代表的ですが、治療に利用することもあります。それに関連したことを研究テーマにしています。

実験に使うゼブラフィッシュは成長するまで透明なので、臓器などが機能するプロセスを直接見ることが出来ます。生理学は生きた状態で調べることが本質ですから、遺伝子の導入や薬剤の効果を生きた状態で観察できるゼブラフィッシュは大きなメリットがあります。日本の医学部ではゼブラフィッシュを使うラボは珍しいですが、NIHでは良く使われています。「医学部だからマウス」という固定観念にこだわらず、実験目的によって柔軟に考えると良いでしょう。

—— **本学に來られて、新しい研究テーマにも取り組まれていますね。**

本学の生理学教室は、異なるバックグラウンドを持った研究スタッフが集まって思わぬ発想が生まれる刺激的な環境で、新しい研究テーマにも積極的に取り組んでいます。その一つが消化管の蠕動運動ぜんどうに関する研究です。通常、蠕動は口から肛門に向かって食べ物を送る運動ですが、ときどき反対側に動くことがあります。なぜ逆向きに蠕動するのか、そのメカニズムはよく分かっていませんでした。ゼブラフィッシュによる実験で、そのメカニズムを解明する非常に面白い結果が得ました。この研究成果は逆流性食道炎などの病気への応用も考えられます。

—— **座右の銘と学生へのおすすめの本は。**

座右の銘と言えるかどうか分かりませんが、生理学のテスト前の授業で漫画『SLAM DUNK』に出てくる「あきらめたらそこで試合終了ですよ」という言葉を学生に贈っています。すべての臓器を網羅する生理学は大量の内容があるので、勉強しているうちに途中で心が折れることもあります。この言葉にあきらめずにやって欲しいと願いを込めています。

おすすめの本は司馬遼太郎著の紀行文集『街道をゆく』です。米国在住時代、帰国したらここにも行きたいと、繰り返し読んでいました。本学は関西出身の学生が多いのですが、日本の歴史文化がこれほど集積している地域に住んでいることの価値が今一つピンと来ていないようです。せっかく関西にいるのですから、歴史を振り返る時間があっても良いでしょう。

—— **最後に学生へのメッセージを。**

医学部生は、どのようなキャリアを取るにしても人生のどこかで研究に携わるステージがあります。授業で興味を持ったことを深めたいと思うことも



Profile

小野 富三人 Fumihito Ono

- 1991年 東京大学医学部卒業
- 1991年 国立国際医療研究センター内科研修医
- 1996年 東京大学大学院医学研究科修了
- 1996年 日本学術振興会特別研究員
- 1998年 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校研究員
- 2003年 フロリダ大学医学部助教(臨海実験所兼任)
- 2007年 米国立衛生研究所(NIH)室長
- 2014年 大阪医科大学生理学教室教授
- 2015年 大阪医科大学研究支援センター長
- 2018年 大阪医科大学学長補佐

ありますし、臨床でたまたま出会った患者さんから研究の道に進むこともあるでしょう。分からないことを追求していく中で数々の論文に行き当たり、そこまでは分かって、そこから先は誰も知らないというところまで来たら、私たちの教室へ相談に来てもらってもいいし、どこか研究ができる場所を探して自らやって欲しい。世の中にはまだ分かっていないことがたくさんあります。未知のこと、世界中で誰も知らないことを探究していく気持ちをぜひ大切にしてください。



Team チーム 大阪医大の 現場力

vol. 16

大阪医大のチームの一員である
各部署をご紹介します。

▶学務部大学院課

2つの研究科業務の 円滑な運営に 努めております



学務部大学院課は、医学研究科医科学専攻（修士課程）、医学専攻（博士課程）、看護学研究科看護学専攻博士前期課程（修士課程）、博士後期課程（博士課程）に関する入学試験から、修了までに関する多岐にわたる業務を行っております。事務室は本部北キャンパスにあり、課員4名にて業務を行っております。4名という小さな課ですが、業務内容としては幅広く、医学研究科、看護学研究科の学事予定に沿い、研究計画発表会等教育研究プログラムを実施して院生の修了に至るまでの幅



広いサポートを行っております。

学事を運営していくうえで核となる業務は、医学研究科、看護学研究科ともに原則月1回開催されます大学院委員会及び研究科教授会があります。開催に際しては、各大学院委員長を始めとする委員の先生方と審議内容等の打ち合わせを行い、研究科長とともに教授会が円滑に運営できるように努めております。

今年度、医学研究科に関しては、医学研究科医科学専攻設置に関して、文部科学省から設置認可を受けました。医科学専攻という今まで本学になかった専攻に関して募集するという一方で、今後入学定員4名の充足に向けて広報活動を行っております。

当課としては医学研究科医科学専攻（修士課程）に関する業務が加わり、

一層多忙になっており
ます。

看護学研究科は、平成26年に同時開設致しました博士前期・後期課程における現在の授業科目について、院生からのアンケート結果や社会のニーズに対応できるよう関連する委員会中心に再編に向けての検討を始めております。

本部キャンパスとは道を隔てた場所ですが、今後も院生と教員の架け橋になるべく、医学看護ともに両者の立場を理解しながら諸問題を解決していきたく思いますので、皆様のより一層のご支援の程宜しくお願いいたします。



文責：学務部大学院課
課長代理 小林 洋樹

病院ボランティアグループ

ふれあい

病院ボランティアグループ「ふれあい」は、
患者さん志向のヒューマンサービスを目指しています。

12種類の活動を展開

■正面玄関

- ・初診案内・患者さん
誘導ボランティア



■病棟

- ・患者さん図書ボランティア
- ・季節の飾りボランティア
- ・縫製ボランティア
(63病棟コットベッドカバー・お見送着・
乳房パッド作成)
- ・小児科病棟ボランティア
(読み聞かせ・バルーンアート・ピアノ演奏会)
- ・車椅子の空気圧定期点検ボランティア



研究助成金の内定・採択について (2019年12月2日現在)

第36回若手研究者のための健康科学研究助成

(公益財団法人 明治安田厚生事業団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
地域在住高齢者における睡眠の質を改善するのは、体力向上か、運動の強度か、運動実施時間か	神谷 訓康 (衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・ 講師(准))	100万円

2020年度 骨粗鬆症財団研究助成

(公益財団法人 骨粗鬆症財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
ナショナルデータベースを用いた各種糖尿病治療薬の骨折リスクの実態解明と骨粗鬆症治療薬の効果検討	玉置 淳子 (衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ・ 教授)	100万円

2019年第3期 研究助成金

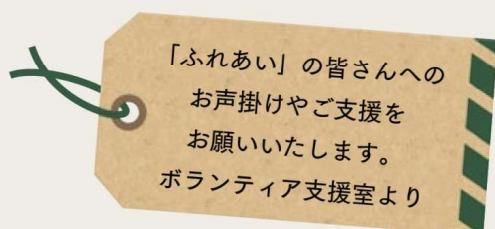
(アッヴィ合同会社)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
マウスの食餌誘発性脂肪性肝疾患による肝機能障害に対する糖尿病治療薬の効果の比較検討	福西 新弥 (先端医療開発学寄附講座・ 特別任命教員教授)	50万円

○研究推進課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

■その他

- ・エコキャップボランティア
- ・グリーンボランティア
- ・折り紙ボランティア
(入院患者さんへの行事食用飾り作製)
- ・通信ボランティア
- ・ふれあい作品展示コーナーへの展示
- ・収集ボランティア(古切手回収)



大阪医科大学 寄付事業活動について

寄付報告

2019年7月1日から2019年11月30日までの間にお申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。感謝の意を表します。また、本学募金Webサイトにもご芳名を掲げております。
※お名前公表を希望されない方につきましては、掲載していません。

大阪医科大学創立100周年記念事業募金

募金目的	大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図る
募金目標額	10億円
募集期間	2018年10月～2027年3月
金額	個人1口1万円、法人1口10万円
顕彰	個人、法人ともに5口以上をいただいた方は、銘板にご芳名をしるし、末永く顕彰いたします
特典	個人10口以上、法人5口以上をいただいた方は、健康科学クリニックの人間ドック（基本コース）1回分の無料健診券を進呈します

- 秋山 美幸
 - 池原 成和
 - 池原 章子
 - 石原 建一
 - 井上 愛子
 - 猪谷 幸子
 - 岩崎 勝義
 - 岩崎 敬子
 - 上田 英一郎
 - 浦田 百合子
 - 王 龍三
 - 大浦 冠志
 - 岡本 昭彦
 - 奥野 幸子
 - 木津 恵子
 - 源久 忠仁
 - 小泉 慶三
 - 戀田 純子
 - 後藤 研三
 - 齊藤 昇男
 - 佐野 浩一
 - 志熊 康
 - 下井 雅之
 - 杉田 弥左子
 - 鈴木 浩史
 - 高木 莊輔
 - 瀧本 真也
 - 田窪 孝行
 - 田窪 良行
 - 田中 和子
 - 田淵 政治
 - 堤 充広
 - 寺下 武彰
 - 富安 カズ子
 - 長尾 吾郎
 - 長尾 章吾
 - 長尾 鶴美
 - 中尾 基克
 - 中橋 聖介
 - 中山 サツキ
 - 成松 正治
 - 西野 正子
 - 野田 和子
 - 橋長 滋子
 - 橋長 俊彦
 - 花房 俊昭
 - 林 正俊
 - 樋口 淑
 - 古田 浩太郎
 - 三木 正之
 - 三木 泰子
 - 水越 康夫
 - 水橋 豊子
 - 淀井 省三
 - 和佐 栄
 - 医療法人社団蘇生会
 - 株式会社エスアールエル
 - 株式会社三笑堂
 - 株式会社もりもと
 - 須賀工業株式会社大阪支社
 - 不二化学薬品株式会社
- (五十音順・敬称略)

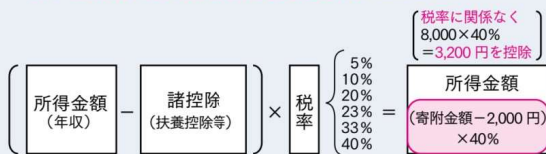
一般ご寄付

- 土岐 裕彦
- 一般社団法人大阪医科大学仁泉会
- 大阪医科大学医学部 PA 会
- (敬称略)

税控除について

税額控除の場合

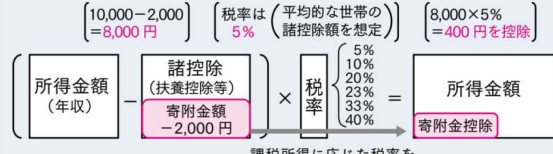
所得金額（年収）300万円の方が1万円を寄附した場合、
税率に関係なく、所得税額から3,200円が控除されます！



- 寄附者の所得金額(年収)を確認する
 - 所得金額(年収)から諸控除を引く(これを課税所得といいます)
 - 課税所得から税率を確認し、乗ずる(これが所得税額となります)
 - 所得税額から寄附にかかる税額控除(※)を引く(これが支払う税金の額になります)
- ※4の控除額の計算式は、「[寄附金額-2,000円(適用下限額)]×40%(控除率)」です。

所得控除の場合

所得金額（年収）300万円の方が1万円を寄附した場合、
400円が控除されます。



- 寄附者の所得金額(年収)を確認する
 - 所得金額(年収)から諸控除(※)を引く(これを課税所得といいます)
 - 課税所得から税率を確認し、乗ずる(これが所得税額になり、支払う税金の額になります)
- ※2の諸控除には寄附金控除も含まれており、「[寄附金額-2,000円(適用下限額)]×税率」が寄附金控除として所得金額(年収)から引かれています。

※文部科学省ホームページより

● 個人住民税の取り扱い

寄付者様が個人の方で、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄付金税額控除の対象として指定している場合、総所得金額等の30%を上限とする寄付金額について、下記の通り翌年の個人住民税額から控除されます。

- 都道府県が指定した寄付金 [寄付金額 - 2千円] × 4% に相当する額
- 市区町村が指定した寄付金 [寄付金額 - 2千円] × 6% に相当する額

※都道府県・市区町村の双方が指定している場合、10%となります。

■大阪医科大学基金

目的	本学の教育・研究の一層の充実やインフラ整備を図るため、財務基盤の強化に資する
募金目標額	50億円
金額	1口1万円
顕彰	個人5口以上、法人50口以上をいただいた方は、銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

●賀川 将夫 ●医療法人毅峰会吉田病院

(敬称略)

■教育環境整備のための募金

目的	医学部教育環境整備
募金目標額	2億円
募集期間	2019年4月1日～2020年3月31日
金額	1口300万円
顕彰	いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

●東 崇明 ●山口 結花 ●医療法人しょうわ会

(敬称略)

【各種募金経過報告】 2019年11月末日現在

募金名	件数	募金額(円)
大阪医科大学創立100周年記念事業募金	449	137,364,216
大阪医科大学基金	912	106,170,200
教育環境整備のための募金(2019年度)	17	39,500,010

寄付者からのメッセージ

創立100周年記念事業募金には、数多くの患者さんからご寄付とともに病院スタッフへの感謝の気持ちが添えられています。

他界した家族が生前大変お世話になりました。感謝しかありません。さらなるご発展を祈念します。(40代男性)

私は貴学の出身ではありませんが、貴学の教育力と素晴らしい先生方を尊敬しており貴学の発展に寄与できましたら幸いです。(70代女性)

何度も助けて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。心より感謝申し上げます。(60代女性)

「法人パートナーズ」制度のお知らせ

本学法人の教育、研究、医療の実践に対象基準を満たすご支援をいただきました皆様には、本学法人はその方々の健康と医療に関するパートナーとなり、本学病院への優先的なご受診や入院、人間ドックの無料受診券の交付、各種健康相談などを行い、生涯寄り添っていく制度です。詳細は、募金推進本部へお問い合わせください。

学校法人大阪医科薬科大学・募金推進本部
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
TEL: 072-684-7243 / FAX: 072-681-3723
Email: kikin@osaka-med.ac.jp



高槻中・高だより

「第7回 科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場

本校の中学1年生3名と2年生3名で構成される6名のチームが、2019年12月6～8日に茨城県つくば市で開催された「第7回 科学の甲子園ジュニア全国大会」に大阪府代表として出場しました。



「科学の甲子園ジュニア」は、全国の中学生が都道府県を代表して、理科・数学などにおける複数分野の競技に協働して取り組み、科学の思考力・技能を競う大会です。



本校は昨年に続いて2年連続の全国大会出場となりました。大阪府代表に決まってから、生徒たちは期末試験の勉強やクラブ活動等にそれぞれ忙しい日々の中、筆記競技、実技競技、工作競技の対策に取り組んできました。そしてその成果を存分に発揮してくれました。

科学の甲子園大阪府大会で優勝！全国大会出場

2019年10月20日、「第9回科学の甲子園大阪府大会」が大阪工業大学大宮キャンパスで開催されました。本校からは高校2年生6名の1チームが参加し、午前中は学科試験、午後はドローンを使った実技試験に臨みました。

チーム一丸となって取り組んだ結果、見事に総合優勝を果たしました。また実技試験では、プログラミングによりドローンを操り優勝を勝ち取り、大阪工業大学サイエンステクノロジー賞を受賞することができました。

今年度は「科学の甲子園ジュニア大阪府大会」で高槻中学校の2チームが優勝・準優勝したのに続き、この「科学の甲子園大阪府大会」でも高校生チームがダブル受賞し、中学・高校を通して大阪の「科学の甲子園」を完全制覇してくれました。

3月20～23日の4日間、さいたま市で開催される全国大会での活躍が期待されます。



大阪医科大学華道部との合同稽古

2019年10月26日、大阪医科大学と本校の華道部を指導されている嵯峨御流・垣花悦甫先生と辰日順子先生のご指導のもと、大学の学園祭に展示する作品を共作しました。桐、フォックスフェイス、フウセントウワタ、マンサクなど九種の花材を皆で大きな花器に生け込み、最後に医科大華道部の作品と繋ぐと秋らしい色合いの美しい大作が完成しました。医科大生の礼儀正しくテキパキした所作にも学ぶことが多かった稽古となりました。



SSH・SGH事業公開発表会

2020年2月22日(土) 9:30～14:30(入退場随時可能)

SSH (スーパーサイエンスハイスクール)	SGH (スーパーグローバルハイスクール)
	9:30 開会式 (コナコピアホール) ◆学校長挨拶 ◆プログラム案内
10:40 生徒によるポスター発表 ◆高校1・2年 (多目的アリーナ)	9:40 第1部・生徒による発表 ◆高校2年 課題研究発表 ◆高校2年 海外フィールドワーク報告発表 ◆高校1年 課題研究 中間発表 ◆中学3年 国際セミナーから学んだこと (コナコピアホール)
11:40 生徒による口頭発表 ◆高校1・2年 (コナコピアホール)	11:40 第1部・生徒による発表 ◆高校1・2年 課題研究 ポスター発表 (多目的アリーナ)
12:30 終了予定	12:30 昼食・休憩 生徒によるポスター発表(多目的アリーナ)
	13:10 第2部・スタンフォード大学オンライン講座 一般公開
	14:10 閉会式 ◆学校長挨拶 ◆講評 など
	14:30 終了予定

2020年度 高槻中学校入学試験結果

1月18、19日に入学試験を実施しました。志願者数のべ1,956人は、大阪府下の私立中学校で最多です。

(単位：人、倍)

	募集	志願者	受験者	合格者	倍率
A日程	165	594	559	223	2.5
男子	110	385	360	138	2.6
女子	55	209	199	85	2.3
B日程	105	1,339	1,129	471	2.4
男子	70	933	778	342	2.3
女子	35	406	351	129	2.7
英語選択型	若干名	23	21	12	1.8
合計	270	1,956	1,709	706	2.4
男子	180	1,331	1,151	487	2.4
女子	90	625	558	219	2.5

大阪薬大だより

防災訓練を実施

2019年10月18日(金)、高槻市北消防署立会の下、防災訓練を実施しました。B棟研究室より地震に伴う火災が発生したとの想定で開始され、学生及び教職員参加による消火・通報連絡・避難誘導・警備・救護の各訓練を実施しました。

避難終了後は、自衛消防隊長及び防火・防災管理者より総評、高槻市北消防署員より講評がありました。最後に消火器等使用の実演を行い、学生及び教職員が積極的に参加しました。



本学の社会貢献活動

▶「2019年度健康たかつき21活動展示会」に参加

2019年10月7日(月)、高槻市・健康たかつき21ネットワークが実施する「2019年度健康たかつき21活動展示会」にブース出展しました。

当日は、藤本陽子教授、佐久間覚准教授(環境分子生理学研究室)が「食品ロス」の話題から健康と環境を考えてみませんか」という題材でポスター展示を行いました。また、本学の市民講座に関するチラシ配布などを通じ、本学の健康づくりに関する活動紹介



も行いました。来場された高槻市民の皆様「食品ロス」について考えていただき、また、本学の教育・研究活動について知っていただく有意義な場となりました。当日は高槻市のマスコットキャラクター「はにたん」も来場し、本学ブース前で写真撮影に応じていただきました。今後も本学の教育研究の成果を基に、健康に関する情報提供を行うことで地域との連携をより深め、健康意識の向上につながるよう取り組んでまいります。

▶社会連携セミナー「けやきの森市民大学」を開催

高槻市との共催で実施している社会連携セミナー「けやきの森市民大学」は、人々の生涯学習を高槻のまちづくりへとつなげることを目指しています。令和元年度は8月30日(金)に「がんの先端放射線治療」というタイトルで、本学の大桃善朗教授による講演を実施し、約100名もの大勢の方々にご参加いただきました。

▶大阪薬科大学市民講座

■実施報告

第48回市民講座を、以下の通り開催しました。

開催日	2019年9月14日(土) 13:00~15:50
会場	大阪薬科大学 C105講義室
テーマ	目を大切に！子どもから大人まで —身近な眼の病気とお薬について—
演題 講師	(1) 全身疾患と眼～目は体の鏡です～ 高槻赤十字病院 眼科部長 植木 麻理 氏 (2) 目薬を正しく使って健やかな瞳に 参天製薬株式会社 研究開発本部 製品研究統括部 分析・合成化学グループ グループマネージャー 池井 辰夫 氏

■開催案内

第49回市民講座を、以下の通り開催します。

開催日	2020年5月30日(土) 13:00~15:50
会場	大阪薬科大学 C105講義室
テーマ	アレルギーの予防と対策～温故知新で楽しく学ぶ～
演題 講師	(1) 演題未定 大阪生薬協会 顧問 神田 博史 氏 (2) 演題未定 関西医科大学総合医療センター 皮膚科 教授 清原 隆宏 氏

共生に向けて ～雇用促進チーム(フクシア)発足～



本法人の障がい者雇用の状況は法定雇用率達成に向けて長年懸命に取り組んできましたが達成には至っていません。その理由として障がい者を雇用しても定着しないこと、またここ数年法人の規模拡大により雇用者が増加したこと、更には法定雇用率が上昇していることなどがあります。一方ではSDGsに見られるように、例えば障がい者雇用を通じて社会貢献する動きが益々加速化しており、本法人も積極的に取り組んでいます。このような環境下、障がい者雇用率を安定して達成・維持する為に新たな取り組みとして、働く意欲と能力を有する障がい者を一部署に集中的に配属することとしました。まずは2020年1月6日に人事企画研修課内に雇用促進チーム(愛称名/フクシア。花言葉は温かい心)を立ち上げました。スタッフは管理者であるマネージャー1名、障がい者を指導するリーダー1名、障がい者であるスタッフ2名の4名と兼務事務1名で、事務所は大学近くの「雄ビル」です。当面は午前中はキャンパス内、午後からは大学建物内の環境美化業務ですが、軌道に乗ってきましたら事務作業補助や病院内の環境美化など業務拡大の予定です。キャンパス内でブルーのジャンパーを着たスタッフが清掃をしている光景を見掛けられましたら、ぜひ「お疲れさま!」と温かいお声掛けをいただければと思います。今後とも、雇用促進チーム「フクシア」へのご理解とご協力をお願い申し上げます。



病院新本館建築工事

大学病院全建て替えは「超スマート医療を推進する大学病院」を基本方針に掲げ、病院のメインタワーとなる大学病院新本館建築がスタートしました。「超スマート医療」施設とは、AIを積極的に活用するとともに高い機能を持つ設備を備えていて、医師・医療関係者が診断・検査・治療に高い技量を発揮し、皆様方に快適な環境で最高の医療を施せる病院を意味します。これによって本大学病院は、特定機能病院として地域の中核病院の役割を果たしてまいります。



撮影：2019年7月



臨床講堂棟解体開始

撮影：2019年10月



臨床講堂棟解体

撮影：2019年11月



病院5号館解体開始

撮影：2020年1月



病院新本館A棟建築予定地



病院新本館A棟建築イメージ

水彩画と私

— 葉牡丹 —

絵・文 名誉教授 富士原 彰



正月飾りに欠かせない葉牡丹

令和最初の元旦は十二支最初の子年、新しい10年の始まりである。家々の軒先には正月飾りに欠かせない葉牡丹が新年を祝っている。

葉牡丹は紅、白、紫、クリーム色等に色づく鮮やかな葉を観賞する観葉植物であり、寒冷下で、紅、白色に色づく葉姿が、古代から花の王様として親しまれ、正月の時期に最盛期を迎える「寒牡丹」の花姿によく似ているのでその名前が付いた。

植物学的にはアブラナ科アブラナ属の多年草であり、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリーの仲間の緑葉野菜である。本来の花は黄色で、4月から5月に葉っぱ群の中心がだんだん盛り上がり枝先に咲く菜の花のような花である。葉に葉緑素以外の色素を持たないもの、赤キャベツ同様の赤い色素（アントシアニン）を持つものもあり、一定以下の低温にさらされると、葉緑素が抜け、白、クリーム色、紫、赤、桃色等に色づく葉変りが花より珍重され、ヨーロッパを原産とする園芸植物として、江戸時代中期に渡来した。寒さに強く、丈夫で育て易くかつ安価であることもあって人気が高まり、品種も増えた。大ぶりのもの小ぶりのものがあり、縁起の好い植物として、紅白二色が好まれる。中心に花を包んでいる葉っぱであることから「慈愛」「愛を包み込む」など祝い事にぴったりな花言葉が付いている。

慈愛に包まれた素晴らしい新しい時代であることを願い、家々の軒先を美しく飾っている。



大阪医科大学
OSAKA MEDICAL COLLEGE

大阪医科大学

<https://www.osaka-med.ac.jp/>

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号
Tel: 072-683-1221(代表)

【学部】

- 医学部医学科
- 看護学部看護学科

【大学院】

- 医学研究科 (医学専攻)
- 看護学研究科 (看護学専攻 [博士前期課程])
- 看護学研究科 (看護学専攻 [博士後期課程])

大阪薬科大学 <https://www.oups.ac.jp/>

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号 Tel: 072-690-1000(代表)

【学部】 ● 薬学部薬学科 (6年制) ● 薬学部薬科学科 (4年制)

【大学院】 ● 薬学研究科 (薬学専攻 [博士課程・4年制])
● 薬学研究科 (薬科学専攻 [博士前期課程・2年制])
● 薬学研究科 (薬科学専攻 [博士後期課程・3年制])

高槻中学校・高槻高等学校 <https://www.takatsuki.ed.jp/>

〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町2番5号 Tel: 072-671-0001(代表)

【6年制完全一貫教育】 ● 中学校:《GLコース》(1年・2年・3年)《GSコース》《GAコース》(3年)
● 高等学校:全日制課程普通科《GLコース》《GSコース》《GAコース》

【文部科学省指定】 ● スーパーサイエンスハイスクール(SSH)
● スーパーグローバルハイスクール(SGH)